

MCP × GA4 スタートガイド 完全版

モジュール5 よくある質問と 落とし穴

導入前の不安と、導入後の「これどうするの？」に先回りで答える

10

Q&A収録
(導入前5+運用5)

0円～

費用の内訳を
正直に説明

図解

データの通り道を
ことばで図解

第3版 (v1.2)

HAPPY ANALYTICS / ga4.guide

2026年7月発行 ※ MCP・Claude Desktop の仕様変更時は無償アップデートで対応します

Q1 Claudeは無料プランでも使えますか？推奨プランは？

A. 無料プランでも動作します（2026年7月時点）。ただし日常的に使うなら有料プランを推奨します。

Claude Desktopと本書のローカルMCP接続は無料プランでも利用できます。まず無料で全ステップを完了し、動くことを確かめてから課金を判断する、で問題ありません。ただし無料プランは会話量の上限が低く、モジュール3の「毎朝のヘルスチェック+月次レポート」といった日常運用にはすぐ足りなくなります。業務で毎日使うならProプラン以上が現実的です。プランの最新の内容と価格は [claude.ai](https://claude.ai/pricing) の料金ページでご確認ください。

Q2 Claude以外に費用はかかりますか？Google Cloudの課金が心配です

A. 本書の使い方の範囲では、Google Cloud側の費用は基本的にかかりません。

項目	費用	補足
Google Analytics Data API	無料	API自体に利用料はありません（過度な連続リクエストには回数制限あり）
Google Cloudプロジェクト	無料	プロジェクト作成・サービスアカウント・キー発行は無料です
Node.js/MCPサーバー	無料	オープンソースのソフトウェアです
Claude	無料～	Q1参照。有料プランは月額課金

組織アカウントの環境によっては、API有効化の前提として請求先アカウントの登録（クレジットカード）を求められることがあります（→モジュール2のエラー1-3）。登録＝課金ではありませんが、不安な場合はGoogle Cloudの「お支払い」→「予算とアラート」で予算アラート（例：100円）を設定しておくで安心です。

Q3 GA4側の権限は何が必要ですか？「閲覧者」しか持っていません

A. 使う段階と設定する段階で、必要な権限が違います。

- ・サービスアカウント（機械側）に付与する権限：「アナリスト」で十分です。「閲覧者」ではAPIからのデータ取得ができません（→エラー3-3）
- ・設定作業をする人間側の権限：STEP5の権限付与の操作には、GA4プロパティの「編集者」以上（推奨は管理者）が必要です

あなたが「閲覧者」しか持っていない場合でも、あきらめる必要はありません。モジュール1のSTEP5のページをそのまま管理者に渡し、「このサービスアカウントにアナリスト権限を付与してください」と依頼すれば、あなた自身の権限は閲覧者のままで運用を開始できます。

Q4 会社のセキュリティポリシー的に大丈夫でしょうか？データはどこを通りますか？

A. 仕組みを正しく理解した上で、自社の基準に照らして判断してください。判断材料を全部書きます。

データの通り道：あなたが質問すると、PC内のMCPサーバーがGA4のData APIに直接アクセスしてデータを取得し、その結果をClaudeが受け取って回答を作ります。

あなたの質問 → Claude → あなたのPC内のMCPサーバー → GA4 Data API (Google)
回答 ← Claude ← 取得された集計データ

安心材料：

- 接続は**読み取り専用**です。ClaudeがGA4の設定変更・データ削除を行うことはできません（推奨設定でRunReport以外をOFFにすればさらに限定されます）
- 認証情報（秘密鍵）はあなたのPC内の設定ファイルにのみ保存され、会話には送信されません

正直に伝えるべき点：

- 取得された**集計データ自体は、回答を作るためにClaude（Anthropic社のサーバー）に送信されます。**
「アクセス解析の集計値を外部AIサービスに渡してよいか」が、自社ポリシー上の判断ポイントです
- ただし、送信されたデータを**AIモデルの学習に使わせない設定**があります：Claudeの「設定」→「プライバシー」にある「**Claudeの改善にご協力ください**」のトグルを**オフ**にすると、以降の会話データはモデルの学習に使用されません。業務利用では**使い始める前にオフ**にしておくことを推奨します（設定変更後の新しい会話から適用されます。プランによって初期状態が異なるため、必ず一度ご自身の設定をご確認ください）
- そもそもGA4に氏名・メールアドレス等の個人情報を入れないことはGoogleの規約上の原則であり、それが守られていれば流れるのは匿名の集計値です

会社への説明には、この項をそのまま提出資料の下書きにしてください。

Q5 エンジニアではないのですが、本当にできますか？所要時間は？

A. できます。本シリーズはコードを書かない前提で設計されています。

作業は「画面のクリック」と「コピー」だけで、プログラミングは一切ありません。目安時間は**60～90分**（会社PCの権限申請がある場合はその待ち時間が別途）です。いちばん詰まりやすいのはSTEP9の設定ファイル編集ですが、モジュール1が1操作ずつ画面付きで案内し、詰まった場合もモジュール2の診断チャートが23パターンのエラーを網羅しています。「動かなくても原因にたどり着ける」ところまで含めて商品だとお考えください。

Q6 複数のサイト（プロパティ）を切り替えて使いたい**A.** 設定ファイルにサーバーを複数定義するのが確実です。

claude_desktop_config.json の `mcpServers` の中に、サイトごとに名前を分けて並べます（サービスアカウントは同じものを使い回せます。それぞれのGA4プロパティへの権限付与＝STEP5だけ、サイトごとに実施してください）：

```
{
  "mcpServers": {
    "ga4-corporate": {
      "command": "npx",
      "args": ["-y", "mcp-server-google-analytics"],
      "env": { "GOOGLE_CLIENT_EMAIL": "（共通）", "GOOGLE_PRIVATE_KEY": "（共通）",
        "GA_PROPERTY_ID": "111111111" }
    },
    "ga4-ec": {
      "command": "npx",
      "args": ["-y", "mcp-server-google-analytics"],
      "env": { "GOOGLE_CLIENT_EMAIL": "（共通）", "GOOGLE_PRIVATE_KEY": "（共通）",
        "GA_PROPERTY_ID": "222222222" }
    }
  }
}
```

プロンプトでは「ga4-ecのデータで～」のようにサーバー名で指定すれば取り違えを防げます。モジュール3の#1（プロパティ名の確認）を会話の最初に打つ癖も有効です。なお、サイトごとにモジュール4のCLAUDE.md（プロジェクト）を分けておくと、前提の混線も防げます。

Q7 チームで使いたい。認証キー（JSONファイル）はメンバーに配っていい？**A.** 原則は「キーは配らず、各自で発行」です。

技術的には同じキーを全員のPCに入れても動きますが、キーの共有は「誰がアクセスしたか」を区別できなくし、退職・PC紛失時に全員分の差し替えが必要になります。推奨は次の運用です：

- ・メンバーごとにサービスアカウントを分けて発行する（STEP3～4を人数分。名前を `claude-ga4-yamada` のように分ける）か、少人数なら共有の判断を情報システム部門と決める
- ・使わなくなったメンバーの鍵は、Google Cloudの「鍵」タブから削除する（即座に無効化できます）
- ・分析の前提・ルールの共有は、キーではなく**モジュール4のCLAUDE.mdを共有することで行う**（チームの分析基準を1つに保つ方法として設計されています）

Q8 Claudeが出す数字はどのくらい正確？GA4の画面と合わないことがある

A. データソースはGA4のAPIそのものなので「Claudeが数字を創作する」ことは仕組み上ありませんが、画面と数%ズレることはあります。

ズレの主因は、データのしきい値・集計タイミング（直近24～48時間は未確定）・指標定義の違いの3つで、これは仕様です（詳細と対処はモジュール2の第9章）。運用のコツは2つ：**比較・報告には確定済みの期間（3日以上前～先月）を使うこと**、そして**数%のズレを許容する判断基準をチームで先に決めておくこと**です。分析の目的は数字を1桁まで一致させるのではなく、意思決定に足る精度を確保することです。なお集計のもとになった条件が気になるときは「いま使ったディメンションと指標と期間を教えて」と聞けば、Claudeは取得条件を開示できます。

Q9 MCPやClaude、GA4の仕様がかわったらこの教材は使えなくなりますか？

A. 仕様変更は今後も起こります。だからこそ本商品は「無償アップデート」を約束しています。

実際、本シリーズの初版時点ですでに2件の仕様変更に対応済みです（2026年4月のGA4権限付与の変更＝管理画面からのサービスアカウント追加が不可に、およびClaude DesktopのUI刷新）。対応の記録は各モジュール巻末の「更新履歴」に残しています。今後の運用は次の通りです：

- 仕様変更を確認したら更新版を作成し、**購入者に無償で配布**します
- お手元の資料と実際の画面が食い違ったら、まず更新履歴でお手元の版が最新かを確認してください
- 最新情報はga4.guideでも随時発信しています

Q10 うまく動かないとき、どの順番で調べればいい？

A. 調べる順番を1本化してあります。迷ったら次の順で。

- ① モジュール2巻頭の**総合診断チャート**（p.3）－ セットアップ途中なら工程マップ、設定完了後なら接続テスト3ステップへ
- ② エラーメッセージが出ているなら、モジュール2巻末の**逆引き一覧**で直行
- ③ 「エラーは出ないが数字が変」なら、モジュール2の**第9章**
- ④ それでも解決しない場合は、症状・実行したプロンプト・エラーメッセージの3点を添えてお問い合わせください（窓口は同梱の案内に記載）

問い合わせの前に③まで進んでいただくと、回答が具体的に解決も早くなります。

2026年7～8月開催のウェビナー(5回・計500名)と、購入者の皆さまからのご質問から追加しています。

Q11 AIのモデルはどれを使えばいいですか？(Sonnet／Opusなど)

A. 本ガイドの分析範囲なら、標準的なモデル(Sonnet相当)で十分です。

指標・期間・条件を明確に指示した集計や比較は、モデルの差より**指示の具体性**が結果を左右します。上位モデルを検討する価値があるのは、長い文脈を踏まえた解釈・大量の資料を横断する分析・複雑なレポートの構成など「考えさせる」場面です。会社のルールで使えるモデルが決まっている場合も、まずはそのモデルで7日間プログラム(モジュール3)を進めて問題ありません。

Q12 有料プランはどれを選べばいいですか？

A. 「まず無料で構築→毎日使うようになったら有料化」の順番で十分です。

目安として、毎朝のヘルスチェック+週次の確認程度なら標準の有料プラン、長時間の分析や大量のレポート作成を日常的に行うなら上位プランが候補になります。**料金と各プランの制限は改定されることがあるため、具体的な金額は必ずAnthropic公式の料金ページでご確認ください。**判断の軸は「無料プランの利用上限に、週に何回ぶつかるか」です。ぶつからないうちは無料のままで問題ありません。

Q13 MCP経由のデータは、サンプリングされていませんか？

A. 通常の使い方ではフルデータですが、条件により発生することがあります。

MCPが利用するGA4のAPIでは、シンプルな集計・短めの期間なら通常サンプリングは発生しません。一方、**期間が長い・ディメンションの組み合わせが複雑・データ量が非常に多い**場合には発生することがあります。数値が管理画面と微妙に合わないときは、期間を分割して聞き直すのが第一の対処です(「エラーは出ないのに数字が変」の一因として、モジュール2の考え方がそのまま使えます)。なお、厳密な非サンプリング分析が必要な規模になったら、それはBigQuery連携の領域で、本ガイドの範囲外です。

Q14 クライアントのデータをAIで分析するとき、契約面(NDA)は大丈夫ですか？

A. 技術的な安全性(Q4)とは別に、契約上の確認をおすすめします。

確認しておきたい観点は次のとおりです。①既存のNDA・業務委託契約に、外部サービス(クラウド・AI)へのデータ投入を制限する条項がないか ②投入するデータの範囲(本ガイドの範囲では計測データのみで、氏名等の個人情報通常含まれません) ③AI事業者側の学習利用の扱い(Claudeは学習に使わせない設定が可能です。Q4参照) ④データの保管・削除のルール ⑤再委託の扱いにAI利用が含まれるか。**本書は法的助言を提供するものではありません。**個別の契約への影響は、必要に応じて法務や専門家にご確認ください。クライアントへの説明には、Q4のデータフロー図とあわせて本Qの観点リストがそのまま使えます。

Q15 AIが出した数値は、そのまま信用してよいですか？

A. 取得された数値そのものは創作されません。注意すべきは「取り方」の方です。

MCP経由で返ってくる数値は、実際にGA4へ問い合わせた結果です。AIが数字を作っているわけではありません。実務上のリスクは別のところにあり、次の2点に集中します。

①**指標・期間・条件の解釈違い**——「先月」の範囲、キーイベントの定義、フィルタの当て方などを、こちらの意図と違う形で組み立ててしまう。②**取得後の加工での取り違い**——AIが要約したり、比率を再計算したりする過程での誤りです。

対処は4つです。

1. **集計条件を必ず出力させる**——「対象期間・使用した指標名・適用したフィルタも一緒に教えて」と添えるだけで、取り違いのほとんどは目視で見えます。
2. **計算はAIに任せない**——合計や比率が必要なときは、生の数値を出させて、計算は表計算ソフト側で行う。
3. **1点だけ検算する**——出てきた数値のうち1つをGA4の画面と突き合わせる。全部を照合する必要はありません。1点のズレは、たいてい条件の取り違いを示します。
4. **定型化する**——毎月使う質問は同じ文面を使い回す。毎回組み立てさせないことが、最も確実な予防策です。

「全件を検算しないと使えない」と考えると運用が回りません。**条件の確認+数点のサンプル照合**で十分に実用的です。

Q16 MCPでは「できないこと」もありますか？

A. あります。本ガイドの範囲でできるのは「集計して比較する」ことです。

期待のズレは「動かない」より深刻な不満につながるため、正直にお伝えします。

できること：指標×ディメンションの集計、期間比較、単一条件での絞り込み、チャンネル別・ページ別・デバイス別などの内訳。本ガイドのモジュール3で扱う分析は、すべてこの範囲です。

できないこと：

- ・期間をまたいだユーザー単位の抽出（例：「今月ページAを見て、かつCVした人」）
- ・セッション内のイベントの順序を条件にした抽出（例：「A→Bの順に見た人」）
- ・ファネル・歩留まりのシーケンス分析

これらは**BigQueryにデータをエクスポートして扱う領域**です（GA4の探索レポートでも一部は可能です）。

「順序」「横断」「個人」が絡む分析は、最初からBigQuery側で設計してください。

なお、実現できない依頼をAIに投げると、それらしい答えが返ってくることがあります。上記に当てはまる依頼をしたときは、返ってきた内容を鵜呑みにせず、何を集計した結果なのかを確認してください。

Q17 パソコンを買い替えたら、また設定し直しですか？

A. はい。認証情報はパソコンごとに保存されているため、再設定が必要です。

「Claudeも Googleアカウントも同じだから、そのまま使えるのでは」と思われがちですが、MCPの動作は「**どのアカウントか**」だけでなく「**そのパソコンに設定と認証情報があるか**」に依存します。

新しいパソコンで必要になるのは次の4つです。

- Claude Desktopのインストールと、設定ファイル（`claude_desktop_config.json`）の設置
- MCPサーバーの導入（初回は自動ダウンロードが走るため、数分かかることがあります）
- 認証情報の再設定——モジュール1の方式なら鍵情報の再設置、別冊（公式版）の方式なら `gcloud auth application-default login` の再実行
- 初回のブラウザ認証・権限承認

設定ファイルをコピーするだけでは動きません。 ファイル内に書かれているのは「認証情報の場所」であって、認証情報そのものは別ファイルとして保存されているためです。またWindowsとMacではパスの書き方が異なります。

移行が終わったら、モジュール3の1本目を実行して疎通を確認してください。数値が返れば完了です。

Q18 クレジットカードの登録は必要ですか？

A. 本ガイドの範囲では不要です。BigQueryに進む場合のみ必要になります。

操作	カード登録
Google Cloudプロジェクトの作成	不要
GA4 Data APIの有効化・利用 （＝本ガイドで扱う範囲）	不要
GA4→BigQueryのリンク設定・エクスポート	必要
BigQueryでのクエリ実行（無料枠を使う場合も）	必要

BigQueryには無料枠（月1TBのクエリ処理・10GBのストレージ）がありますが、**その無料枠を使う場合でも請求先アカウントの登録が前提**となります。登録しても、無料枠の範囲内であれば課金は発生しません。

紐付け状況は、Google Cloudコンソール左メニューの「お支払い（Billing）」で確認できます。

くり返しになりますが、**本ガイドで解説している分析（GA4 Data API経由）にカード登録は必要ありません。**

Q19 GA4の画面と数値が合いません

A. 原因は3つあります。順に切り分けてください。

①**サンプリング**——期間が長い、条件が複雑、データ量が多い場合に発生します。判定方法は、AIに「サンプリングの有無も教えて」と添えること。対処は期間を分割して聞き直すことです。

②**カーディナリティ上限による「(other)行」**——値の種類が非常に多いディメンション（ページURL、キーワードなど）で発生し、上限を超えた分が「(other)」にまとめられます。こちらも「(other)行の発生有無も教えて」で判定できます。

③**しきい値処理**——Googleシグナルを有効にしている場合、ユーザー数の少ない行が非表示になることがあります。GA4管理画面のレポート識別子の設定を確認してください。

この3つは別物です。「エラーは出ないのに数字が違う」ときは、まず①と②をAIに確認させ、それでも説明がつかない場合に③を疑う、という順序が効率的です。

なお、GA4の画面側も「その日のうちは確定値ではない」点にご注意ください（データ処理に最大48時間かかる場合があります）。

版	発行日	主な内容
v1.0	2026年7月	初版発行。Q4にデータフローの説明と、モデル学習への利用を止めるプライバシー設定（設定→プライバシー）の案内を収録。
v1.1	2026年7月	ウェビナー(3回・計300名)の質問を反映し、追加Q&A章(Q11～Q14:モデル選択／有料プランの考え方／サンプリング／契約面の注意)を新設。
v1.2	2026年8月	ウェビナー(計5回・500名)と購入者の質問を反映し、Q15～Q19を追加(AIの数値の信頼性／MCPでできないこと／PC買い替え時の再設定／カード登録の要否／GA4画面と数値が合わない3つの原因)。

Claudeのプラン内容・プライバシー設定の名称・仕様の変更を確認した際は、購入者の皆さまに無償の更新版を配布します。

本書は「MCP×GA4 スタートガイド 完全版」のモジュール5です。セットアップはモジュール1、エラー対処はモジュール2、分析プロンプトはモジュール3、CLAUDE.mdテンプレートはモジュール4をご覧ください。

© HAPPY ANALYTICS / ga4.guide